【4-8 定性的システマティックレビュー】

CQ	8	標準治療が終了した乳癌患者が自然妊娠することは推奨されるか？
P	標準治療を終えた患者が自然妊娠することが、その後の乳がんの予後や出生児におよぼす影響を評価する	
I	標準治療を終えた後に自然妊娠した患者	
C	標準治療を終えた後に妊娠しなかった患者。出生児への影響は一般集団でのイベント頻度も参考になる。	
臨床的文脈		

O1	乳癌無病生存期間
非直接性のまとめ	とくになし
バイアスリスクのまとめ	対照群と介入群で背景となる病期や治療介入において大きな差が認められる。
非一貫性その他のまとめ	とくになし
コメント	対照群と介入群で背景となる病期や治療介入において大きな差が認められるため、妊娠が直接無病再発期間につながらない可能性がある。

O2	乳癌生存期間
非直接性のまとめ	特になし
バイアスリスクのまとめ	対照群と介入群で背景となる病期や治療介入において大きな差が認められる。
非一貫性その他のまとめ	特になし
コメント	対照群と介入群で背景となる病期や治療介入において大きな差が認められるため、妊娠が直接予後につながらない可能性がある。

O3	エストロゲン値の上昇
非直接性のまとめ	なし
バイアスリスクのまとめ	なし
非一貫性その他のまとめ	なし
コメント	エストロゲン値について述べている論文は認めず、評価困難。

O4	児の奇形症発症率
非直接性のまとめ	乳癌治療後妊娠における児の奇形率を調査した研究2報はいずれも、治療内容の詳細が不明であり、また妊娠中絶に関する情報がない。
バイアスリスクのまとめ	national registry dataであるため選択バイアスは少ないが、がん患者と健康な対照群ではがん治療以外にも様々なケアの差が存在すると予想される。また、背景にある交絡因子を十分に拾い上げることは困難である。
非一貫性その他のまとめ	奇形発症率が乳がん治療後に高まるという報告と高まらないという報告が1報ずつある。
コメント	癌治療後に妊娠した患者と一般集団におけるデータが比較されている。